



KUSHIRO WEST ROTARY CLUB 2017~2018 (平成 28 年~29 年)

釧路西ロータリークラブ会報

創立 昭和 45(1970)年 6 月 8 日 承認 昭和 45(1970)年 6 月 10 日

2017~2018 RI テーマ 「ロータリー：変化をもたらす」



《例会日：毎週月曜日 12：30~13：30》

《例会場：ANA クラウンプラザホテル 釧路市錦町 3-7》

会長 松田 正昭 幹事 金田 剛

■クラブ事務所■

釧路市幸町 14 丁目 1-1 ノースコートサンスイ 2F

TEL(0154)23-6175 FAX(0154)23-6123

《本日のプログラム》 10月30日 12：30

普通例会

米山月間・ゲスト卓話

《次回のプログラム》 11月6日 12：30

普通例会

ゲスト卓話

2017年10月30日(月) 第14回 通算2201回

【点鐘】 松田会長

【ロータリーソング斉唱】 「それでこそロータリー」：平会員



【会長挨拶】 松田会長



皆様、こんにちは。先週は、夜間例会にてクラブフォーラムを執り行なう予定でしたが、折悪く、超大型台風 21 号の通過時刻に例会時間が重なるという予報が出されておりました。市内では小中校が早くから臨時休校が発表され、また平地でも降雪が予想されておりました。この度は、規定審議会の中で謳われております処の「例会運営の柔軟性」を適用いたし、会員の皆様の安全を考慮して休会させていただきました。あまり例のない事でしたがご了承いただければと存じます。尚、予定しておりました、家庭集会の各班発表につきましては、11月のクラブフォーラムに合

わせて行います。本日も、また、台風 22 号が通過するということで大荒れの予想でしたが、夜中には低気圧に変わり何とか無事に例会が開催され、ほっとしております。ひと雨ごとに寒さは強くなり、雨も徐々に雪に変わってまいります。私事ですが、先ほども道東道の白糠インターチェンジに融雪用の塩を納めてまいりました。冬の準備は着々と進んでおりますが、車同士の事故ばかりではなく、高速道路でも動物の侵入がありますのでお気をつけてください。特に鹿はもちろん怖いですが、エゾ狸はちょっとしたスペースから侵入して、予想外の所で道路を横断したりします。去年は下り坂のアイスバーンで出くわし、危なくタイヤがロックしそうになりヒヤッとしたことがございます。皆様もどうか、これから始まる冬道シーズンの運転にはお気を付けていただきたいと思います。以上、会長挨拶といたします。

【幹事報告】金田幹事



ロータリーレートは、114 円です。他クラブ会報回覧しております。閲覧ください。また、本日プログラム点鐘が私になっております訂正致します。

◎親睦活動委員会 高田委員長 【ニコニコ献金】



- ☆入会記念…八村会員、那知会員、杉野会員
- ☆結婚記念…加藤会員、那知会員
- ☆その他…山本会員（お子さん、ご結婚記念として）



【本日のプログラム】ゲスト卓話担当：国際奉仕

☆米山記念月間プログラム ◎釧路北 RC 北山健二君



以前に聞いた会員も居ると思いますが、最初は私と米山記念奨学会との関わりについてお話しさせていただきます。私が米山記念奨学事業に関わりを持ったのは、今から 18 年前、釧路 RC の小船井さんが分区代理の時に初めてクラブの米山奨学委員長を務めました。その当時、北 RC から輩出した故両角・坂本両パストガバナーが米山奨学事業に格段の理解を示していた事もあり、米山奨学会への拠出金は 1,400 万円ほどありました。その当時、当クラブの拠出金額は 2500 地区では帯広 RC に続いて 2 番目でした。(現在は 5 番目です) 只、その時点までに第 7 分区に米山奨学生は、一人も誕生しておらず、金額の一部を釧路 RC で行っている嵯峨記念育英会のように地元で進学する苦学生に使えないだろうか、真剣に考えて委員長を務めていました。しかし、翌々年にその気持ちが一変する出来事がありました。小船井さんがガバナーに就任した年、第 7 分区で初めて米山奨学生が誕生しました。当時、私は釧路公立大学の学生だった事もあり、米山奨学生のカウンセラーを務めることになりました。5 月に行われた北見市でのカウンセラー研修会の時に初めて米山奨学生に会い、釧路～北見までの行き帰りの時間に多くの話をしました。中国内モンゴル自治区出身の 32 歳の男性で、その時は釧路教育大学大学院修士課程の 2 年生でした。内モンゴル自治区のフフホト市の大学で体育の教師をしていましたが、その大学の教授と教育大学釧路校の教授との間につながりがあり、釧路へ社会体育学の研究のため自費留学してきていました。最初の 6 ヶ月は研究生として授業を受け、その後試験に受かって、修士生として学問を続けていました。日本への渡航する際に持ってきたお金は、授業料と生活費ですぐに無くなってしまい、夜は皿洗いを遅くまで、土曜・日曜日は近隣の農家での大根抜き等を、夏・冬の休みには、酪農家に住み込みで働いて生活費と授業料を稼いでいました。日本語はテレビで覚えたそうです。住み込みでした酪農の仕事では、お腹が空いてたまらなかったそうです。身長 185 cm・

体重 90kg もある男性です。住み込みでは、朝 4 時から仕事が始まり、終わるのは 10 時、それから朝食を摂り休憩、午後から作業が始まり終わるのが 7 時過ぎ、それから夕食、日当の一日 5 千円は良いのですが、一日 2 回の食事はきつかったそうです。稼いだお金で入学金・授業料は払えましたが、食べることで精一杯で学問する時間がひとつも取れない状況でした。彼は、学問をしに大学へ来たのに、研究ができないのなら自国に帰ろうと何度も思ったそうです。そんな時に米山奨学金制度を知り、これに受からなければ帰ろうと考えていたそうです。北見での会場で初めて奨学金を受けとった時、涙を流して、ありがとうございます、ありがとうございます、これで、ようやく、お金の心配をしないで学問に打ち込めます。と感謝されました。私達が拋出しているお金が役にたったことを、実感させられました。米山記念奨学事業をもっとよく知ってもらい、拋出して頂いているお金がたしかに役に立っていることを伝えたくて、翌年地区の米山記念奨学委員長を務めました。その当時米山奨学生は、大学の関係で旭川・北見・帯広の 3 市に偏ってしまいます。多くのロータリアンに米山奨学生と接して貰える機会がどうしてもできるかと考えていました。その時は釧路公立大学を卒業し、帯広畜産大学の修士生として帯広に通っていたので、当時帯広畜産大学に在籍していた 3 名の米山奨学生に、ロータリアンの家庭にホームスティする事を提案したところ、是非行きたいと言ってくれました。そこで、先ず釧路に来て貰い、釧路を起点に各クラブに行き、貰うように考え、第 8 分区各クラブの幹事さんをお願いしたところ、浜中 RC・根室西 RC・中標津 RC が例会に合わせての二泊三日のホームスティを受けてくれました。ホームスティ先会員と米山奨学生の日程を調整して釧路まで来てもらい、根室・浜中へは花咲線で、中標津へはバスで行ってもらいました。帰りには釧路で、訪問先のクラブでのこと、ホームスティ先の事を聞かせて貰いました。よい時間を過ごせた 3 名の奨学生はとても喜んでくれました。また、浜中 RC では毎年でも来て良いよと言って頂きました。根室西 RC の、ホームスティを引き受けて下さった会員の方は米山奨学生と出会って、米山奨学会の事を知ることができましたと、10 万円の特別寄付をしてくれました。翌年からは米山奨学生が誕生していない、第 1・2・4・8 分区のクラブの例会日に合わせた 2 泊 3 日のホームスティ活動をカウンセラーを通して全米山奨学生に行うことを始めました。更に、ロータリー会員と米山奨学生との交流の場を出来るだけ多く設けることによって米山奨学事業の理解を深めて頂きたい考え、地区大会での米山奨学生の発表の場を設けました。同じ分区内でも、距離的に遠いクラブには米山奨学生の世話クラブはできませんので、子クラブ制を設けて年 3 回のクラブ訪問等を実行しました。当初は、この事業を理解してくれないクラブ・カウンセラーもいましたが、多くのクラブ会員の協力のお陰で進める事ができた事は感謝で一杯です。この例会日に合わせたホームスティ事業・子クラブ制は、2500 地区が独自に日本で初めて行った事業です。現在、この事業は他地区でも行われています。続いて簡単に、米山奨学事業について説明いたします。(2 枚目) ロータリー米山記念事業とは、この事業は日本で学んでいる私費留学生(大学学部生・博士生・修士生・短大・高専・専修学校)に対して 1~2 年間の支援を行っています。(3 枚目) 特徴としては、お金を支給するばかりではなく、奨学生 1 名に対して世話クラブと、その奨学生を支援するカウンセラーを設けることで、奨学生の精神面及び・人との繋がりを重視しています。(4 枚目) 日本で初めてロータリークラブを東京に創立した、故米山梅吉翁は、日本が第二次大戦でアジア諸国に多くの苦しみを負わせた事を悔やみ、将来日本が生きる道は平和しかない、それを世界に理解してもらうために、アジアの国々から一人でも多くの留学生を受け入れ、平和な日本を肌で感じてもらうしかないと考えました。その意思を受け継ぎ、昭和 27 年に東京 RC が、米山奨学事業を設立しました。5

年後には、日本の全クラブが参加する事業へと変遷して行きました。そして、平成 16 年には国際ロータリーから日本における「多地区合同奉仕活動」事業として認知されました。(5 枚目) 現在までの事業規模は、125 の国から、19,808 人(18,648 人) 奨学生の受け入れを行っており、昨年の奨学生支援生は 766 名(730 名) を数えています。2500 地区ではいままでに 170 名の米山奨学生が誕生し、過去当第 7 分区からは 8 名が誕生しています。当西 RC から 1 名の米山奨学生の世話クラブを行っています。米山奨学事業は、日本における民間最大の奨学団体です。(6 枚目) 事業資金は会員一人一人からの普通寄付とそれ以外の特別寄付から成り立っており、会員の皆様が頂いたお金は全額、奨学生支援に使われています。尚、運営費は、頂いた利息で賄っています。(7 枚目) 3 万円の特別寄付で準米山功労者・10 万円で米山功労者としています。尚、寄付金は金額を問いませんので、小額寄付でも OK です。(8 枚目) また、寄付金には税金の優遇措置があります。詳細は 10 月に会員に配布します「豆辞典」に乗っておりますので参照ください。米山奨学生の地区での割当数は寄付金額で決まってきます。本年度は 2500 地区では帯広に 4 名、北見に 1 名、旭川・稚内に各 1 名の 9 名の米山奨学生が在籍しています。尚、釧路西 RC の上期 3,000 円、下期 3,000 円併せて、6,000 円の普通寄付は 2500 地区では、最も多い金額です。只、残念なのは昨年特別寄付金が無かったことです。

これから、財団設立 50 周年記念 DVD をご覧下さい。尚、現在米山学友会は、日本国内に 31 か所、海外に 6 か所の 37 の集まりがあります。

【プレゼンテーション抜粋】

☆講話の様相紹介

ロータリー米山記念奨学事業

2017年10月

ロータリー米山記念奨学事業とは
 勉学・研究を志して日本に在籍している外国人奨留学生に対し、日本のロータリアン(ロータリークラブ会員)の寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する日本最大の民間奨学団体です。

事業の目的・使命は、将来日本と世界を結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍する優秀な人材を支援することです。

ロータリーの目指す「平和と国際理解の推進」そのものです。

米山記念奨学事業の特徴...

- 日本のロータリー独自の事業
- 世話クラブ・カウンセラー制度による深い交流
- 人との繋がりを重視する

米山梅吉翁の意思を継ぎ「ロータリーの夢」

米山基金の創設

- 1952年に事業構想、「平和日本」を世界へ
- 平和を実践する人材を育てる

国際理解と親善への近道
日本の34地区合同事業



◎例会運営委員会 杉野委員長



11月のプログラムをご案内致します。

6日、普通例会・ゲスト卓話

13日、普通例会・次年度理事・役員選告示

20日、夜間例会・クラブフォーラム

27日、普通例会・会員卓話となっております。

【次回例会のご案内】

・11月6日（月曜日）

ゲスト卓話 担当：青少年奉仕

《例会運営委員会 三木委員長》

10月30日

在籍数

29名

「編集：上杉委員」

出席者

19名

欠席者

10名

出席率 73.0%

会報委員長：上杉 朋巧

副委員長：三木 克敏

委員：櫻田 美香

菊地 康平

鶴間 秀典

杉野 史和

高畑 哲也

請川 透